



アメリカでの生活に車が必要なのはいうまでもない。車がいないといわれるのはニューヨークなど一部の大都市だけだ。

ワシントンD.C.で働く人々が住んでいるのは、ほぼ正方形の形をしたD.C.の中ではなく、近郊のメリーランド州やバージニア州である。地下鉄もあるのだが、これは日本のような通勤地獄ということにはならない。どんなに混んでも体が触れ合うということにはならない。その分、車の交通渋滞は深刻になりつつある。

アメリカでは中古車が意外に高い。それだけ市場のニーズがあるからで、数年落ちでも新車の7割から8割の値段で売られていることがある。

まずはホンダのディーラーに行った。1999年から2001年型の中古アコードが1万5000ドルぐらいで売られている。こうしたディーラーでは、値切れれば1000ドルぐらいは下がるらしい。

次にベルト(環状495号線)の外に出て、大規模に展開しているショップに行ってみた。ここはトヨタとミツビシを扱っている。常時数百台の新車と中古車が揃えてある。値段はぎりぎりまで下げて表示しており、これ以上値下げはできませんというのがポリシーだ。

自動ドアを通り抜けると若いセールスマンが立っている。こちら



今月のビデオ 車に乗るぞ

土屋大洋

(GLOCOM主任研究員 / メリーランド大学国際開発・紛争管理センター訪問研究員)



の希望を伝えるとデータベースのところに案内され、タッチパネル式の画面を通じて何台かリストアップされる。「こんなのでどうだい?」というので、現物を見せてくれと頼む。

車の列をかき分けていくと、なるほどトヨタのカローラが並んでいる。安いけれども、パワー・ウィンドウのない車、内装の趣味の悪い車などいろいろだ。状態の悪い車から見せていって、そこそこいい車を買わせるのは日米共通の流儀らしい。

最初に試乗したカローラは、エンジンに異音がする。こちらの表情をさっと読み取って、ロシアからやってきたという18歳のヴラドは、次の青い車ならばうちだという。確かに青い方の乗り心地は悪くない。他のカローラよりは高いが、ホンダのシビックよりははるかに安い。これにしとこうということになった。

この日は7月4日の独立記念日。アメリカでは割引大特価セールスの買い物デーだ。ヴラドは顧客データをパソコンに打ち込み、喜んで手続きを進める。

アメリカの場合、車を買うには免許と自動車保険が必要だ。日本だと乗る車によって保険料が違うが、こちらでは先に保険を買っておかなくてはならない。もう一つ大きく違うのは、買ったその場から乗って帰ることになることだ。自動車の登録は後日ということで、期限付きの仮ナンバーをつけてさっそく帰ることになる。

いざ発進! ビデオは助手席から見たわが街カレッジ・パークの様子である。日本と比べてかなり道がでこぼこしている。やはり左ハンドルは怖い。

ビデオをご覧になりたい方は下記URLへ
<http://www.glocom.ac.jp/top/publication.j.html>

